

令和 5年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名: 生産振興課
 担当名: 花き・果樹・特産・水産担当
 内線: 4146 (単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
P33	狭山茶DX推進研究事業			一般会計	農林水産業費	蚕糸特産及び	蚕糸特産研究費	茶業研究所費		
事業期間	令和4年度～ 令和8年度	根拠 法令				針路 分野施策	12 1202	儲かる農林業の推進 強みを生かした収益力のある農業の確立	SDGsゴール 9 SDGsターゲット 9-1, 9-2, 9-3, 9-4	
1 事業概要	<p>茶園の集積により経営の大規模化が進む一方、茶園の多くは散在しており、生育や病虫害の発生状況の確認が、茶業者の大きな負担となっている。 また、ICT技術が飛躍的に進む一方で、茶生産への導入は進んでいない。 このため、生育管理データ等の収集や解析にICTを活用し、新たな茶生産の実現に向けた試験研究を実施する。 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 △901千円</p>			<p>5 事業説明</p> <p>(1) 事業内容 ア 推進事業 45千円 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 8,307千円</p> <p>(2) 事業計画 ア 推進事業 ICT活用環境整備 環境センサの設置推進、推進会議の実施 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 収穫作業の効率化 葉濡れセンサのデータ評価による摘採可否の判定 凍霜害回避 実証計画策定 害虫発生予察 画像データの解析精度、環境データ活用実証計画策定 防霜ファンの遠隔操作 活用実証結果の評価(1事例)</p> <p>(3) 事業効果 ICT活用環境整備 環境センサの設置15か所、推進会議の実施3回 収穫作業の効率化 葉濡れセンサのデータ評価による摘採可否の判定1モデル 凍霜害回避 実証計画策定1計画 害虫発生予察 画像データの解析精度90.5%、環境データ活用実証計画策定1計画 防霜ファンの遠隔操作 活用実証結果の評価1事例</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 茶業者団体、メーカー、産地市町等と連携を進める。</p> <p>(5) 補正予算の概要 執行留保分(旅費・需用費・役務費)の減額</p>						
2 事業主体及び負担区分	県(県10/10、国0)									
3 地方財政措置の状況	なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員	9,500千円×4人=38,000千円									
予算額		財源内訳							一般財源	補正後の 予算額
決定額	△901								△901	7,451
現計額	8,352								8,352	

事業内訳書

事業名	狭山茶DX推進研究事業		
単位事業名	狭山茶産地におけるICT活用実証試験	予算額	△ 901千円

○歳入

(単位：千円)

款・節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	△901	—	
合計	△901	—	

○歳出

(単位：千円)

節	補正予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	△4	—	執行留保分の減額 △4千円
需用費	△861	—	執行留保分の減額 △861千円
役務費	△36	—	執行留保分の減額 △36千円
合計	△901	—	